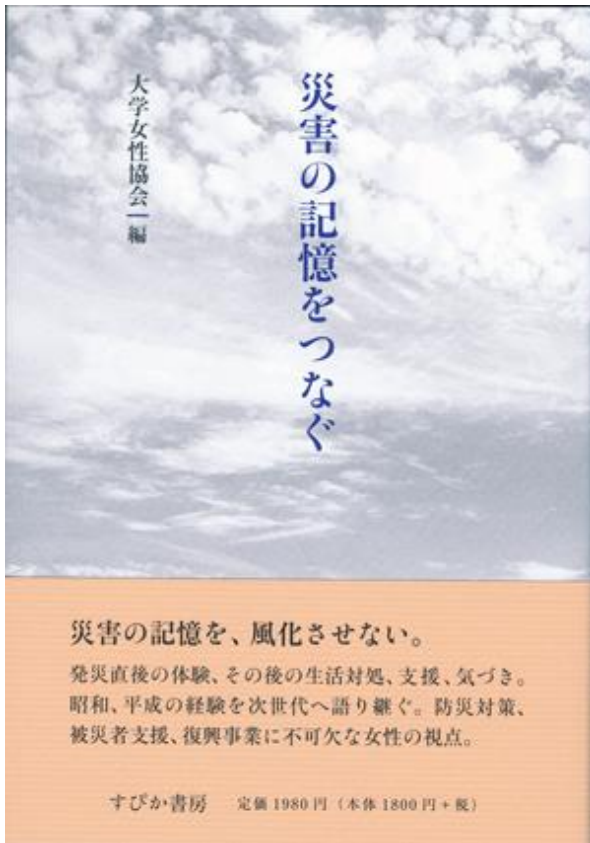


災害の記憶をつなぐ

完成!



大学女性協会[編]

46判 縦組み 216頁

定価:1980円(本体1800円+税)

発行:すぴか書房

ISBN978-4-902630-31-2

昭和、平成の災害の記憶を風化させないために、次世代へ語り継ぐ。発災直後の体験、その後の生活対処、支援、さまざまな気づき。防災対策、被災者支援、復興事業に不可欠なジェンダー／女性の視点からの発言集。

【まえがきより】

「東日本大震災、阪神淡路大震災に限らず、突然非日常の中に放り込まれた発災時の体験や、それに続く生活者としての対処は、人生の一齣(こま)として強く記憶に刻まれています。そして、そこには必ず学びがあり、活かすべき教訓を伴うもののようです。それぞれが伝えている内容はさまざまですが、緊急時に必要なこと、防災に役立つ生活の知恵、また政治や行政に要請したいことなどの提言は、はからずも、SDGs の理念でもある「誰一人取り残さない」ジェンダー平等の視点で共通していました。読者の皆様には、そこに、本書が女性たちの記録集として編まれたことの意義をお認めいただければありがたく存じます。」

【目次】

第1章 東日本大震災の記憶

2011年3月11日午後2時46分、宮城県で

- ◆幻のクリスマスローズ 谷地森涼子
- ◆津波に巻き込まれた我が家 相澤富美江
- ◆世界が終わる! 松山裕美子
- ◆美容院から飛び出した私 佐藤満里子
- ◆美しい音楽に励まされて 松山寿美子
- ◆64歳での人生のリセット 黒澤和子
- ◆流された能楽鑑賞 島原洋子
- ◆大きな災害と小さな私～ライフイベントがすべて停止する中で～ 若菜令子
- ◆13階の我が家の被災 中村陽子
- ◆3分続いた大きな横揺れ 斎藤 歩

茨城県で、東京、神奈川県でも

- ◆大地震と原発事故～150キロ離れた茨城県でも～ 静間敏子
- ◆ブーツをはいて室内を歩く 加藤実穂子
- ◆日常が止まった瞬間～大河ドラマが突然、緊急地震速報に～ 伊藤真理子
- ◆東日本大震災で逝った友 嶋田君枝
- ◆『キャッツ』観劇の日に～困ったときは相見互い～ 鷺見八重子
- ◆帰宅難民は免れたけれど 渡部由紀子

その後の日々

- ◆車を13時間運転して高齢の父の許へ 秋光正子
- ◆被災地の知人をたずねて 庄子穎子
- ◆報道の向こう側 平田恭子
- ◆震災後に迎えた学会発表 中屋紀子
- ◆物不足、食料不足の日々と日本人の品格 青木洋子

広がる支援の輪

- ◆赤いブレスレット～アメリカからの支援の輪～ 小関和子
- ◆すばやかかったドイツの救援・支援活動 ウィルヘルム 菊江
- ◆福島原発避難者の支援チームの一員として 今高博子
- ◆遠く離れた岡山からの支援ネットワーク 片岡雅子
- ◆大学生への義援金 中島美那子
- ◆世界をつないだ災害 向後紀代美

復興への道のり

- ◆「被災地へピアノをとどける会」 渋谷由美子
- ◆震災50日後の美術館トーク 加藤光子
- ◆復興の日々に思うこと 井上典子
- ◆石巻市、東松島市の5年後 佐々木澄子

2011.3.11 記憶のアルバム あのとき、私は

- ◆大正生れの母は強かった 藤谷文子
- ◆家族の帰路のこと 嶋田君枝
- ◆婦選会館で一夜を過ごして 房野 桂
- ◆靴が歩き易かったお陰で 木村和子
- ◆帰宅難民になって 矢島多恵子
- ◆いちばん困ったこと 溝渕ひろ子
- ◆高層ビルのウィークポイント 鷺見八重子
- ◆甲州街道にあふれる帰宅者の群れ 窪田憲子
- ◆明治神宮に泊まった夜 庄司ヨシ
- ◆崩れた石灯笼 佐々木澄子
- ◆からだの急変と思いきや 西村寿美子
- ◆『脂肪の塊』そのままの光景 小合 忍
- ◆夏みかんの木の下で 児林英子
- ◆ガソリンの残量が少なくて困った 中村礼子
- ◆屋根は瓦解、塀は倒壊 幡谷哲子
- ◆お風呂の残り湯が活きた 高坪富美子
- ◆分け合って食べた一斤の食パン 飯田久子
- ◆ワインのビンが割れて 安 久子
- ◆2週間続いた断水 小林れい子
- ◆東名高速を西日本から救援隊が次々と 鷺崎千春
- ◆出張先の大阪で 加藤恵津子
- ◆到着した成田空港の不気味な静けさ 横須賀典子

第2章 阪神淡路大震災の記憶

1995年1月17日午前5時46分、兵庫県で

- ◆亡き妹への手紙 三木谷節子
 - ◆1分弱で変貌した、まわりの景色 松村和子
 - ◆築120年の我が家が、一瞬のうちに 岡田貴代江
 - ◆家族が3か所に別れて暮らす日々 樋口由美子
- その後の10年
- ◆根づいたコミュニティ活動～震災10年を迎える宝塚～ 杉本和子
 - ◆神戸の惨状からはや10年 飯田嘉壽子
 - ◆朝の時間が止まった記憶は今も鮮明なのに 加藤啓子
 - ◆神戸復興10年の道のり 後藤安子
 - ◆西宮の今 もう10年も経つのに 松村和子

第3章 自宅を避難所にした経験

- 関東・東北豪雨／常総水害(2015年9月)———●長谷川典子氏(元常総市長)にきく
- 鬼怒川が決壊した!
 - 自宅を避難所に提供
 - 避難生活の問題点と心構え
 - 防災対策への提言
 - 情報の発信と共有
 - 忘れないために

第4章 災害の歴史、被災の記憶

- 中越地震(2004年)の記憶 ◆地元住民の底力～山あいの地での避難生活～ 大淵智絵
- 新潟地震(1964年)の記憶 ◆火柱を上げる石油タンク～12日間続いた石油コンビナート火災～ 高橋令子
- ◆我が家の襖戸に残る津波浸水の跡 田代信子
- 狩野川台風(1958年)の記憶 ◆親戚が家ごと流され全滅～伊勢湾台風(1959年)と並ぶ恐怖の記憶～ 窪田憲子
- 土地に刻まれた歴史を学ぶ ◆渥美半島、伊良湖岬を襲う地震と津波～古代から記録に残る災害の歴史～ 端本和子
- ◆関東大震災の遺物～神奈川県座間市の語り伝えと石碑～ 渡部由紀子
- 自らの記憶を振り返る ◆わが人生における災害体験史 笠間昭子

第5章 来たるべき災害に備える

- 教訓と戒め ◆地震と津波から得た教訓 相澤富美江
- ◆非常時における行政の役割の重要性 松本由美子
- ◆平穏な日々を無駄にしない 飯岡絹子
- ◆経験を風化させない～災害の実情を次世代へ伝える～ 野村君代
- ◆届けられなかったパンの缶詰 栗田富美子
- 経験を学びに ◆役に立った前回の経験 菊地昌枝
- ◆家庭での備え、挫けない心 平田恭子
- ◆災害を忘れずに生きる 加藤光子
- 茨城新聞「時論」より ◆松本由美子
- ◆行政の重要性再確認～避難所生活体験～
- ◆震災体験を次世代に～市民アンケートの教訓～
- ◆行政と協働し減災へ～災害時の女性の視点～
- ◆災害とジェンダー～少女と女性のための防災ブック作成とワークショップ 櫻井彩乃
- ◆ご遺族へのケアと支援～JR福知山線脱線事故(2005年)の救援活動を原点に、看護師として～ 久保田千景
- ◆くまもと未来への復興人材育成事業 岡本美和

第6章 未来へつなぐ 国をこえて、世代をこえて

世界に向けて

- 大学女性インターナショナル世界大会(2019年、ジュネーブ)で ◆減災のためにできること 平田恭子
- アジア大学女性連盟(UWA)第9回総会(2012年、バンコク)で ◆Flight from Fukushima 福島からの遁走 穂田信子
- 被災高校生への奨学支援 ■奨学金の趣旨と事業概要
- 奨学生から届いた手紙 奨学生のその後 アンケート

著者プロフィール 一般社団法人 大学女性協会

「女性の高等教育の向上」「男女共同参画社会の推進」「国際協力と世界平和」を目指して1946年に創設されたNGO。一般社団法人として奨学金事業、女性リーダーの育成、国内外の諸問題に対する提言活動など多様な事業を展開している。

ご注文は

全国の書店でお買い求めください。インターネットでは、版元ドットコム(→[こちら](#))へのアクセスをおすすめします。該当書籍の画像をクリックすると開かれる詳細紹介ページに[オンライン書店で購入]欄があります。各書店の当該ページに即座に飛べますので、在庫の確認など手早く通覧するのに便利です。なお、アマゾンをご利用になる際には、くれぐれも定価をご確認ください。アマゾンには定価の表示がありません。そのためか、一般書店で定価販売中の新品を不当に高額な値段で出品する、悪質な商法が横行しています。ご注意ください。

読後感想は [こちら](#) へ

